



2017年2月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社 市進ホールディングス

JASDAQ 4645

グループ概要

連結子会社11社 (2016年10月現在)

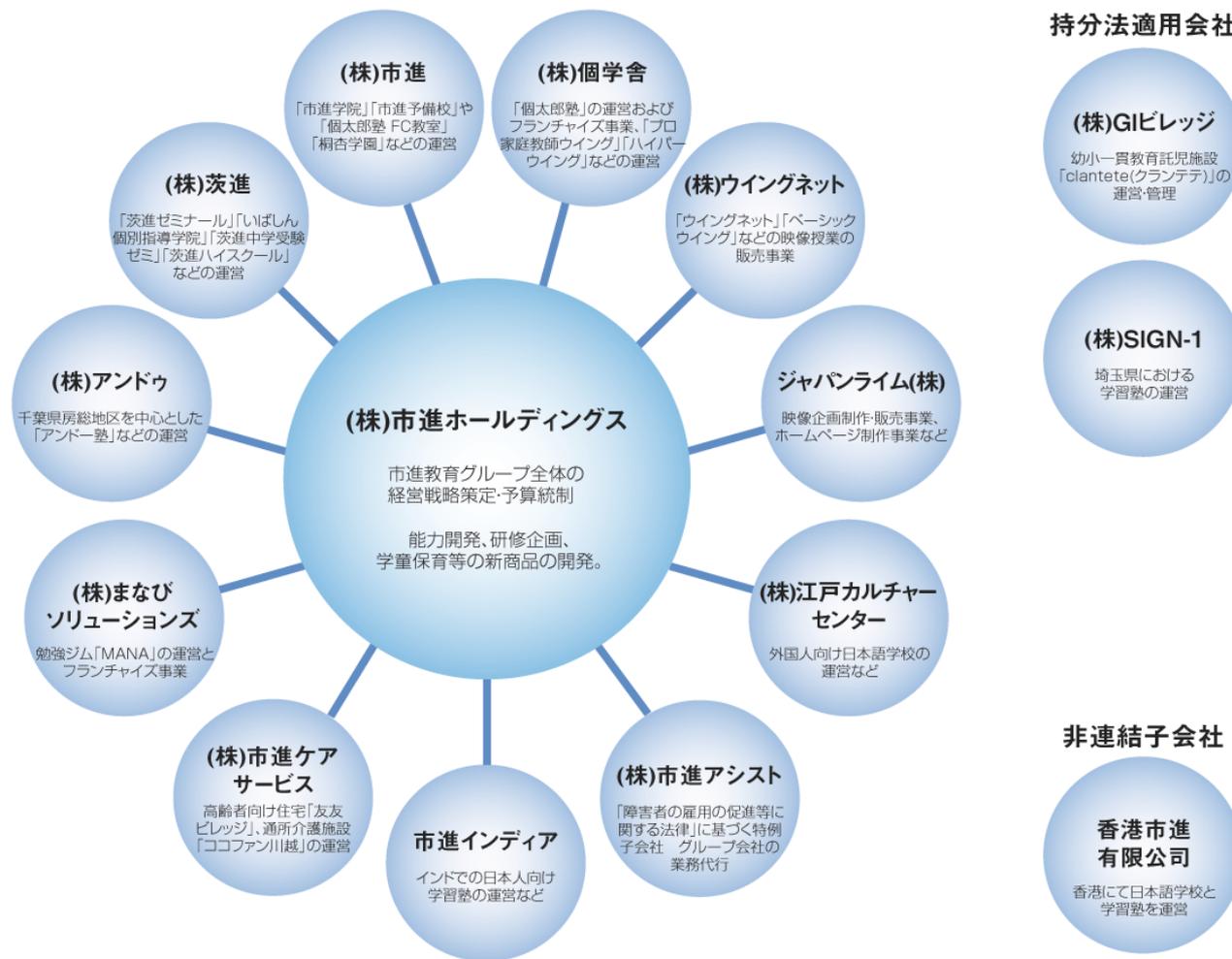
※全て100%出資

持分法適用会社2社

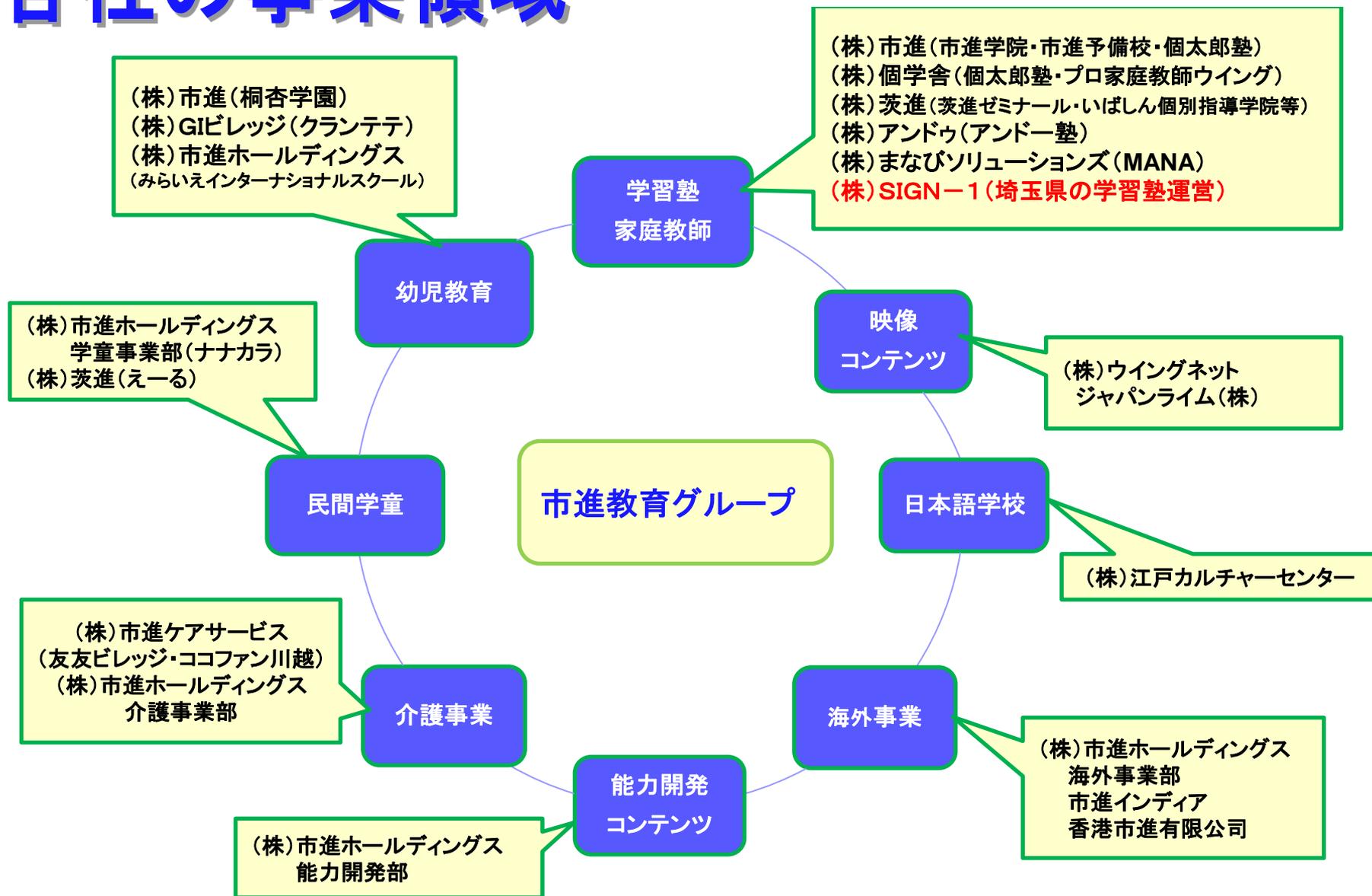
非連結子会社1社

【変更点】

- ・ 2016年2月末
市進インディアが非連結子会社から100%連結子会社となりました。
- ・ 2016年3月1日
(株)まなびソリューションズを設立いたしました。
- ・ 2016年7月28日
持分法適用会社 (株) SIGN-1
を設立いたしました。



各社の事業領域



(2016年10月現在)

学研ホールディングスとの提携業務の拡大

(株)SIGN-1(サインワン)の設立

【本社所在地】 埼玉県さいたま市南区南本町2-1-2

【資本金】 1,000万円

【株主】 株式会社学研スタディエ70% 株式会社市進ホールディングス30%

【代表者】 矢嶋亮一

【事業内容】 学習塾経営(市進学院 埼玉県内17教室)

新しい「まなび」を創造し、埼玉の子どもたちと共に夢にチャレンジします。

<小学部>

- ・従来の進学コースに加え、学研教室やロボットプログラミング講座などの「学研コンテンツ」や「ICTコンテンツ」を積極的に活用し、新しい「まなび」で小学生の学びを創造します。

<中学生>

- ・「授業」による指導に拘るだけではなく、学研グループの教材、市進グループの映像コンテンツを活用した、生徒が自立的・積極的に学習できる指導スタイルを確立することで、難関、上位の高校に対応します。

<高校部>

- ・市進グループの映像コンテンツである「ウイングネット」をさらに活用し、カンフェリーやチューター機能を拡充させることで大学受験に対応します。



2017年2月期第2四半期 決算概要



業績予想との差異【第2四半期】

■ 2017年2月期 第2四半期の業績予想との差異（10月11日プレスリリース）

※百万円未満は切り捨て

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に帰属 する四半期純利益 (百万円)	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	7,830	△228	△257	△323	△31円27銭
今回実績値 (B)	7,896	54	32	7	0円71銭
増減額 (B-A)	66	282	289	330	—
増減率 (%)	0.8	—	—	—	—
前期第2四半期実績	7,838	△70	△100	△162	△15円75銭

- ・ 市進学院の夏期講習の好調、映像コンテンツであるウイングネットの販売伸長により、売上高は前回発表予想を66百万上回りました。
- ・ 営業利益は、売上高の状況に加えまして、営業費用も経費構造の転換により当初の想定以上に効率化できたことで、前回発表予想より282百万円改善いたしました。
- ・ 営業利益が改善したことにより、経常利益は289百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は330百万円、それぞれ前回発表予想を上回りました。

業績予想との差異【通期】

■ 2017年2月期 通期の業績予想との差異（10月11日プレスリリース）

※百万円未満は切り捨て

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に帰属 する当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	16,355	338	305	196	18円78銭
今回修正予想 (B)	16,069	462	429	207	19円85銭
増減額 (B-A)	△286	124	124	11	—
増減率 (%)	△1.8	36.7	40.7	5.6	—
前期実績	16,321	649	623	242	23円52銭

- ・ 第2四半期（累計）における営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益が前回発表予想を改善したことに伴い、通期の業績予想につきましても改善する見通しです。
- ・ 営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の通期業績予想につきましては、新設教室やリニューアルなどの次年度への投資も見直し、予測しています。
- ・ 2016年7月1日に公表した株式会社学研ホールディングスとの提携業務の拡大による株式会社市進・埼玉地区の学習塾事業に関わる売上高、営業費用の影響額を通期の業績予想に見込んでおります。

連結損益計算書

※単位：百万円

	2016年2月期 第2四半期	2017年2月期 第2四半期	増減
売上高	7,838	7,896	57
売上原価	6,691	6,579	△112
売上総利益	1,146	1,316	170
販売費及び一般管理費	1,217	1,261	44
営業利益	△70	54	125
経常利益	△100	32	133
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△162	7	170

- ・売上高は予想を66百万円上回りました。市進の夏期講習の好調とウイングネットの映像コンテンツの販売伸長が主な要因です。
- ・費用面では、不採算拠点からの撤退やフロア縮小による賃借料、減価償却費、水道光熱費の節減などの経費構造の転換により、想定以上の効率化を達成しました。

年代別生徒数【2016年8月時点】

※単位：名

年度	業態	幼児	小学生	中学生	高校生	その他	総計
2016年 8月	集団授業	443	8,662	10,110	1,050	332	20,597
	個別授業	0	2,629	5,869	3,544	0	12,042
	映像授業	0	236	3,143	8,632	0	12,011
	計	443	11,527	19,122	13,226	332	44,650
2015年 8月	集団授業	447	8,252	10,286	1,850	260	21,095
	個別授業	0	2,396	5,776	3,810	0	11,982
	映像授業	0	167	2,288	7,574	0	10,029
	計	447	10,815	18,350	13,234	260	43,106
2014年 8月	集団授業	318	7,868	9,868	1,832	219	20,105
	個別授業	0	2,325	5,814	3,863	0	12,002
	映像授業	0	52	1,831	7,107	0	8,990
	計	318	10,245	17,513	12,802	219	41,097

- ・ 8月時点の生徒数全体は44,650名（昨年同期比1,544名増）となりました。
- ・ 集団授業は茨進が好調も、市進の中学生、高校生が在籍減となりました。
- ・ 個別授業は、個太郎塾直営・FCは好調。市進FCが在籍減となり、全体が横ばいです。
- ・ 映像授業は、小学生・中学生・高校生ともウイングネットコンテンツの受講生が順調に増えています。
- ・ 幼児は主に桐杏学園、その他は主に江戸カルチャーセンターの在籍数です。

経費(4大経費の状況)

※単位：百万円

	2016年2月期 第2四半期				2017年2月期 第2四半期			
	実績値	前期比		売上比	実績値	前期比		売上比
人件費	4,311	△363	△7.8%	55.0%	4,346	34	0.8%	55.0%
施設費(賃借料)	1,367	△102	△7.0%	17.4%	1,340	△26	△2.0%	17.0%
教材・印刷費	449	22	5.4%	5.7%	448	△0	△0.2%	5.7%
広告宣伝費	334	△3	△1.2%	4.3%	305	△21	△6.5%	3.9%
4大経費合計	6,463	△447	△6.5%	82.5%	6,440	△22	△0.4%	81.6%

- ・ 人件費はほぼ横ばい。撤退教室の人件費減の一方、新規開設教室、アンドウ、まなびソリューションズの人件費が増えています。
- ・ 不採算拠点撤退と業態変更による教室面積の縮小は、施設費削減に効果がありました。
- ・ 教材・印刷費はほぼ横ばい。広告宣伝費は、Web広告への移行で、チラシ費用を削減しました。

連結貸借対照表

※単位：百万円

	2016年2月期 期末	2017年2月期 第2四半期	増減	増減率
流動資産	2,812	3,002	190	6.8%
固定資産	7,768	8,033	264	3.4%
繰延資産	4	2	△1	△40.0%
資産合計	10,586	11,038	452	4.3%
流動負債	4,088	4,257	168	4.1%
固定負債	4,766	4,968	201	4.2%
負債合計	8,855	9,225	369	4.2%
純資産合計	1,730	1,813	82	4.8%
負債・純資産合計	10,586	11,038	452	4.3%
自己資本比率	16.3%	16.4%	0.1%	—

- ・総資産は、11,038百万円（前連結会計年度比104.3%）。主な要因は現金及び預金の増加、時価の影響による投資有価証券の増加などによるものです。
- ・負債は、9,225百万円（前連結会計年度比104.2%）。主な要因は、借入金の増加などによるものです。
- ・純資産は、1,813百万円（前連結会計年度比104.8%）。主な要因は、その他有価証券評価差額金の増加です。

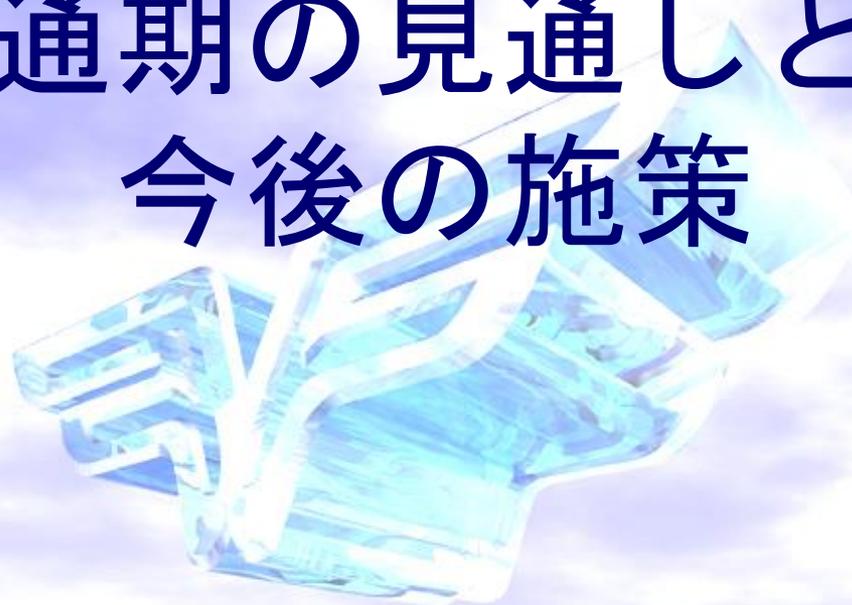
連結キャッシュ・フロー計算書

※単位：百万円

	2016年2月期 第2四半期	2017年2月期 第2四半期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 353	135	489
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 124	△ 389	△265
財務活動によるキャッシュ・フロー	437	349	△87
現金及び現金同等物の増減額	△41	93	134
現金及び現金同等物の期首残高	888	744	△143
現金及び現金同等物の四半期末残高	847	838	△9

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フローは135百万円の収入。主な要因は、税金等調整前四半期純利益23百万円の計上の他、非資金取引として減価償却費285百万円、のれん償却額31百万円を計上している点等です。
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フローは389百万円の支出。主な要因は、市進学院他拠点の新設・移転による有形固定資産の取得支出205百万円、映像授業コンテンツの制作による支出79百万円を計上している点です。
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フローは349百万円の収入。主な要因は、借入金の増加です。

通期の見通しと 今後の施策



2017年2月期 通期見通し

	2013年2月期 (実績)	2014年2月期 (実績)	2015年2月期 (実績)	2016年2月期 (実績)	2017年2月期 (予想)
売上高 (百万円)	19,139	17,858	16,771	16,321	16,069
営業損益 (百万円)	△780	101	315	649	462
経常損益 (百万円)	△785	84	282	623	429
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	△1,577	△737	△1,053	242	207
1株当たり当期純損益 (円)	△174.70	△81.68	△105.61	23.52	19.85
1株当たり年間配当額 (円)	10	10	10	10	10

- ・第2四半期（累計）における営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益が前回発表予想を改善する見通しとなったことに伴い、通期の業績予想につきましても改善する見通しです。
- ・営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の通期業績予想につきましては、新設教室やリニューアルなどの次年度への投資も見直し、予測しています。
- ・2016年7月1日に公表した株式会社学研ホールディングスとの提携業務の拡大による株式会社市進・埼玉地区の学習塾事業に関わる売上高、営業費用の影響額を通期の業績予想に見込んでおります。

各社の状況・今後の施策1

●(株)市進 (市進学院・市進予備校・個太郎塾・桐杏学園等)

- ・千葉県・東京東部地区で今春開校の10教室は順調に集客中。市進学院の強みである千葉県、東京東部地区での教室展開は次年度に向けても継続します。2017年春までに7~9拠点ほどの教室を新設予定です。
- ・他学年(小1~小4、中2、高2)が好調で、次年度への受験学年(中3、高3)増へつながります。
- ・(株)「桐杏学園」の集客は横ばい。教材・カリキュラムの見直しで合格実績の強化を計画しています。

●(株)個学舎 (個太郎塾・プロ家庭教師ウイング・ハイパーウイング)

- ・直営店の集客増と申込科目数増を課題として、同業他社との差別化、サービスレベルのアップに取り組んでいます。映像授業を組み合わせた商品も推奨していきます。
- ・個太郎塾内に勉強ジム「MANA」を導入中。自立学習を促し、学習効率をアップしていきます。

●(株)茨進 (茨進ゼミナール・いばしん個別指導学院・茨進中学受験ゼミ・茨進ハイスクール等)

- ・圧倒的な合格実績と施設リニューアルが成功し、集客は引き続き順調です。
- ・県内地域に特化したエリア戦略を展開中。地域のニーズに合わせた指導で、競合他社を圧倒する合格実績を作り上げます。

各社の状況・今後の施策2

● (株) ウイングネット (映像授業「ウイングネット」「ベーシックウイング」)

- ・ 新年度から契約加盟校数は順調に伸びています。特に教科書レベル対応の映像授業「ベーシックウイング」が引き続き順調です。10月現在加盟校の拠点数は1600拠点を突破しました。
- ・ 高校生向けのコンテンツをさらに強化しています。現在全国10会場で販促・営業セミナーを実施。さらに加盟校への働きかけを強化しています。

● (株) アンドゥ (アンドー塾)

- ・ 7月に千葉中央校をリニューアルオープンしました。現在5校体制で運営中です。今後は小学生、高校生の集客にも力を入れていきます。

● (株) まなびソリューションズ (勉強ジム「MANA STUDY GYM」)

- ・ 文科省が示している学力の3要素を効果的に身につけることができる勉強ジム「MANA STUDY GYM」の商品開発・販売を実施しています。グループ内では個太郎塾が導入中です。順次外部販売を開始していきます。
- ・ 「MANA STUDY GYM」では学力向上とともに、自立心を育て、問題解決能力や自己マネジメント力を身につけるアクティブラーニングにより新時代の塾を提案します。

● ジャパンライム (株) (スポーツ、教育、医学の映像コンテンツ制作・販売)

- ・ 高校吹奏楽部の吹奏楽指導に関する合同練習体験型サウンドトレーニングなど特徴ある映像商品の開発と販促活動による営業に力を入れています。前年同四半期と比較して売上高・利益とも伸長しています。

各社の状況・今後の施策3

● (株) 江戸カルチャーセンター (日本語学校)

- ・ 昨年に引き続き、2016年7月にも定員増を実施 (360名⇒420名)。特に、中国、ベトナム、ネパールからの留学生が順調。前年同四半期と比較して売上高・利益とも伸長しています。

● (株) 市進ケアサービス (高齢者向け住宅「友友ビレッジ」、通所介護施設「ココファン川越」)

- ・ 友友ビレッジ (高齢者向け賃貸住宅) は、より手厚い介護サービスを提供し、入居率は順調に推移しています。ココファン川越 (デイサービス) は、競争の激しい地域ながら定員を増員し通所者数を伸ばしています。
- ・ 3月に開講した介護資格取得講座は、定員いっぱいとなり、修了生も8割以上が就職を決めました。後期の講座も順調にスタートしています。

● (株) 市進アシスト (障がい者雇用の促進)

- ・ 特例子会社として本格稼働して満5年を迎えています。就労支援会社との連携で、障がい者対象にパソコン研修、メンタルクリニック講座を実施しています。

● (株) GIビレッジ (クランテテの運営) ※ (株) 学研塾ホールディングスとの共同出資会社

- ・ 学研グループの持つ幼児教育の強みと市進グループの小学生指導の強みの相乗効果を見込んで運営しています。
- ・ 開校3年目で集客は順調。幼児部門はレギュラー会員、エール会員ともに順調。学童部門はエール会員が順調。課題としては、学童部門の入会希望者掘り起しに注力しています。

市進ホールディングスの事業について 1

●民間学童「ナナカラ」4校体制へ拡充

「奏の杜校」 「本八幡校」オープン

- ・ 2015年春に千葉県流山市に開校したおおたかの森校は、定員いっぱいのお子様にお通いいただき、好評を博しております。
今春千葉県八千代市に2校目の八千代中央校をオープンし、集客は順調です。
- ・ 2016年11月に千葉県習志野市に奏の杜校をオープンします。9月より入所説明会を開始し、集客活動をスタートさせています。
- ・ 2017年4月、千葉縣市川市にオープンする「ナナカラ・クロス本八幡校」は、こどもたちの将来を見据えて、グローバル環境に向かう異文化体験プログラムが特長です。



市進ホールディングスの事業について 2

●海外事業

<日本語事業>

- ・インド国内での日本語事業は、グジャラート州の大学（PDPU）においての受講者は年々増えており、現在6クラス220名の受講生が在籍しています。
- ・香港においては、2016年5月に「東亞語言文化學校」が市進グループの一員になり、日本語学校の展開を強化できる体制が整いました。

<学習塾事業>

- ・インド・グルガオンの市進学院は10月現在通塾生が21名になり順調に推移しています。
- ・香港・学習塾の夏期の在籍は32名になりました（定員40名）。

●各種研修商品

- ・能力開発部が手がける各種研修商品は軌道に乗り始め、一般企業、官公庁、教育委員会、私立学校等に着実に販売実績を作っています。特に社内講師の育成メニューのニーズが高い状況です。
- ・採用実績としては、NTT東日本、タイヘイ、大手ビール会社、大手通信会社、愛知銀行、経済産業省、武蔵野市教育委員会、府中市教育委員会、八王子市教育委員会、横浜市教育委員会、取手市教育委員会などです。

株主還元策

●利益配分に関する基本方針と配当の予想

- ・株主への長期的利益還元が重要な経営課題の一つ。従来の安定配当を堅持。
- ・期末に向けて1株当たり当期純利益が順調に出る予想による配当実施。
- ・2017年2月期 期末配当金：10円（予想）

●株主優待

毎年2月末日時点（年1回）で株主名簿に記載されている500株以上保有の株主様宛に
10,000円分の割引優待券（市進教育グループ受講券 5,000円券×2枚、税込み）を贈呈

《対象となる市進教育グループのブランド》

市進学院／市進予備校／個太郎塾／プロ家庭教師ウイング／桐杏学園／アンドー塾
茨進中学受験ゼミ／茨進ゼミナール／茨進ハイスクール／いばしん個別指導学院
ウイングキッズ・ラボ／イングリッシュ・キャンプ等

《対象となるサービス》

- ・市進教育グループ（上記）の入会金
- ・市進教育グループ（上記）の季節講習*講習料 *春期・夏期・冬期講習、高3入試直前講習
- ・プロ家庭教師ウイングの指導料



參考資料

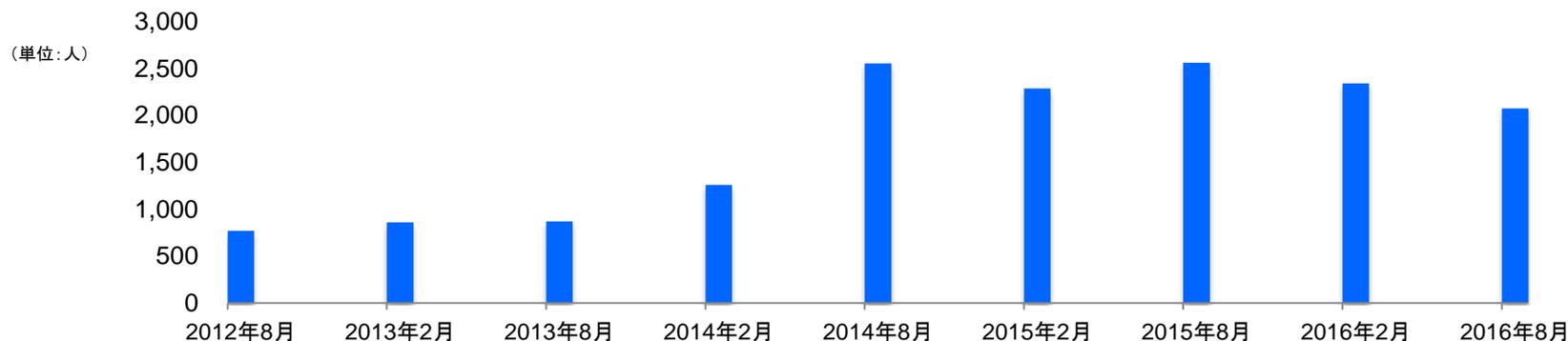


立会外分売の実施（流動性の向上に向けて）

当社株式の分布状況の改善および流動性の向上を図るため、株式の立会外分売を実施

分売株式数	300,000株
分売実施日	2016年8月24日（水）
分売の値段	310円 （8月23日の終値319円のディスカウント率 2.82%）
買付申込数量	買付顧客1人につき10,000株（売買単位：100株）
実施取引所	東京証券取引所

< *ご参考 株主数推移>



グループの拠点

グループ全500拠点
(2016年10月現在)

【埼玉県】全57拠点

- ・市進学院・市進予備校 20拠点
- ・個太郎塾 33拠点
- ・桐杏学園 3拠点
- ・ココファン川越(デイサービス) 1拠点

【茨城県】全102拠点

- ・茨進ゼミナール 29拠点
- ・いばしん個別指導学院 30拠点
- ・茨進 中学受験ゼミ 18拠点
- ・茨進ハイスクール 16拠点
- ・ウイングキッズ・ラボ 4拠点
- ・個太郎塾 2拠点
- ・桐杏学園 2拠点
- ・えーる(民間学童) 1拠点

【東京都】全131拠点

- ・市進学院・市進予備校 38拠点
- ・個太郎塾 83拠点
- ・ハイパーウイング 1拠点
- ・桐杏学園 4拠点
- ・みらいえインターナショナルスクール 1拠点
- ・クランテテ(幼少一貫教育) 1拠点
- ・江戸カルチャーセンター(日本語学校) 1拠点
- ・友友ビレッジ(高齢者向け住宅) 2拠点

【千葉県】全170拠点

- ・市進学院・市進予備校63拠点
- ・個太郎塾 97拠点
- ・桐杏学園 3拠点
- ・ナナカラ(民間学童) 2拠点
- ・アンドー塾 5拠点

【神奈川県】全34拠点

- ・市進学院・市進予備校 8拠点
- ・個太郎塾 26拠点

【他地域・海外】全6拠点

- ・個太郎塾 4拠点
(岡山県2 栃木県1 長野県1)
- ・海外学習塾 2拠点
(香港1 インド1)



会社概要 (2016年8月31日現在)

- 社 名 : 株式会社市進ホールディングス (ICHISHIN HOLDINGS CO., LTD.)
- 創 業 : 1965年5月
- 設 立 : 1975年6月
- 代表者 : 代表取締役社長 下屋 俊裕
- 資本金 : 1,476,237千円
- 上 場 : 1996年7月24日 JASDAQスタンダード (証券コード : 4645)
- 発行済株式の総数 : 10,604,888 株
- 大株主の状況

株主名	所有株式数 (千株)	持株比率
1 株式会社学研ホールディングス	2,000	18.86%
2 株式会社あけぼの事務所	1,526	14.39%
3 河端 真一	1,236	11.66%
4 梅田 威男	658	6.21%
5 株式会社増進会出版社	573	5.40%
6 市進グループ社員持株会	511	4.82%
7 田代 英壽	350	3.30%
8 株式会社千葉銀行	246	2.32%
9 株式会社ウィザス	220	2.07%
10 株式会社進学会	212	2.00%

本資料は、2017年2月期決算の財務情報・経営指標などの提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。

また、本資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではありません。将来の業績は、環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があります。

【お問い合わせ先】

株式会社市進ホールディングス 広報宣伝部

TEL : 03-5840-9837 FAX : 03-3816-9371

E-mail : kouhou@ichishin.co.jp

I Rホームページ URL : <http://ir.ichishin.co.jp/>